

赤ちゃん連れて ようこそ日本

子供服も
買ってね

子供服ブランド「ミキハウス」を運営する三起

商行(大阪府八尾市)グループは乳幼児を連れてインバウンド(訪日外国人)向けの支援事業に乗り出す。洋服や離乳食運びなど日本の子育てノウハウを紹介する無料情報誌を9月に発行。乳幼児を連れて家族が利用しやすい宿泊施設を認証する制度も始める。増えている子供服を購入する訪日客をさらに取り込む。

小学館集英社プロダクションなども出資し、育児相談を手がける「ミキハウス子育て総研(同)」が事業を手掛ける。

情報誌は「Happy Note For mum」。日本人向けに発行している雑誌をベースに、出産準備品の選び方や産婦人科医のアドバイスなど人気の

ミキハウス、訪日旅行後押し



情報誌は離乳食選びなど日本の子育てノウハウを紹介

記事を抜粋して約40ページで構成する。英語と中国語に翻訳する。
ミキハウスのベビー・子供服だけでなく、紙おむつや粉ミルクなど乳幼児向けの商品や知育教室

認証ロゴで乳幼児を連れてでも利用しやすいことを示せる

などサービスも紹介する。スマートフォンで商品・サービスの情報を調べられるよう、QRコードも掲載する。
発行部数は3万部を計画する。大阪市内の高島屋や近鉄百貨店、阪急百貨店など訪日客が多く買い物に訪れる約40店アウトレット15店で配布する。年2〜3回の発行を予定する。
訪日客向け宿泊施設の認定事業は「Child-friendly Hotel for travelers」と名付けた。

子育て情報誌「ベビー歓迎の宿」認定

希望する施設は費用(120万円)を払い、審査を受ける。客室にイスやソファを配備、スタッフやウェブサイトで外国語に対応―など50項目のうち、70%のクリアを条件とする。
認定を受けるとロゴマークを施設のウェブサイトに掲載でき、ミキハウス系の情報誌でも紹介する。訪日客の宿泊増加をうながしている。

認定では、大和ハウス工業グループのコスモスインシアが運営する都市型ホテル「MIIMARU」が第1号となる見通し。ベッドと和室、キッチンなどを備える東京・上野、京都市の2施設が対象となる。
子育て総研は日本人向けに「ウェルカムベビーのお宿認定」を手がけ、

約80施設を認定している。施設は認定取得に伴い子供連れ対応の宿泊プランを増やし、宿泊料の増加につながったという。訪日客向け認定は3年後に50施設を見込む。
(東大阪支局長 荻谷直政)

「ウェルカムベビーのお宿」 訪日客向け主な認定基準	
▼50項目のうち70%のクリアで認定	
・部屋に風呂やシャワー	
・くつろげるソファ	
・ドアなどで指が挟まらない配慮	
・ダイニングに子供用のイスや食器	
・紙おむつを捨てる容器	
・転落防止用ベッドガード	
・子供連れを伝えられる予約サイト	
・フロントが多言語で対応	
・病院の紹介	
・近隣にコンビニやドラッグストア	